

彼はカフェ・ノワールを味わいながら、物思いにふけていた。カトリーヌの焼いたビスキュイの甘い香りが部屋いっぱい漂っている。けれどそれにさえ気付かず、彼は心の中でもっと甘い思いに浸っていた。

つい三日前のパーティーで出会ったブルースを歌うマドモアゼル、名前はなんといったけ、そう、イザベルだ。美しかったなー。大勢の男たちの中から僕を選んでくれるとは思わなかった。「ラストダンスは私と踊ってね」と言われたときは天にも昇る心地だったなあ。次の休日にまた会う約束をして彼は有頂天だった。恋人のカトリーヌはいつものように自分の作った菓子を味わいながら、TV のコメディアンに笑い転げている。料理の得意な彼女は、時々こうして彼に美味しいものを振舞ってくれる。無邪気な彼女は品行方正だ。それだけにちょっと物足りない気もする。きょうも早々とキスを投げかけて家へ帰っていった。

さて、待望の、しかしあいにくと雨が降る土曜日、彼はイザベルと長い時間を過ごした。もうそれだけで彼はまるで急流に呑み込まれていくように、すっかり彼女の虜になった。それから何度も彼は彼女と二人の時を過ごした。彼女が仕事上の憂鬱を酒で癒しながら「人々の言うように、歌手なんて華やかなものじゃないの。そんなに楽じゃないのよ」という時、彼は彼女を抱きしめてなだめた。既に彼は彼女の仕事にさえ同行していた。ある時は彼女のストレスを和らげようとピラミッドを見るためにエジプトへ行き、またカナダ旅行もした。彼の人生の大半の時間は彼女のために費やされた。いくら無邪気でもカトリーヌが気付かぬはずはない。けれど彼女は何も言わない。いつのまにか彼の心からはカトリーヌの面影が消えていった。

そしてある日、彼はついにイザベルに結婚を申し込んだ。すると彼女は眼を閉じて自分に言い聞かせるように「私ほうたうの。そのためには結婚なんてできないわ」と言った。彼は愕然とした。一瞬彼はふたりの愛が信じられなくなった。「恋に酔いしれて、俺は何をしていたんだろう？ 何も云わないけれど優しい心で側にいたカトリーヌ。料理もうまくて…鱈のポワレ、ブイヤベース…」彼は突然のように彼女を思い出し、偶然を装って彼女に会いに行った。

玄関のドアを開け、彼女は相変わらず美味しいガトー・オ・フロマージュ・ブランでもてなしてくれる。そのとき奥から老夫婦が顔を覗かせた。「遊びに来ている夫の両親なの。私はひとりじゃないの。結婚したのよ」彼は目が点になった。聞けば、自分がイザベルにうつつを抜かしている間、寂しい思いをしていたカトリーヌを慰めてくれた、あの冴えなかった同級生が彼女の夫だという。「彼ね、目立たない人だけど、とてもやさしいの。それに私の料理をいつも美味しいって褒めてくれるの」すっかりのろけられて彼は彼女の家を後にした。

それから何時間歩いただろう。眠れる街で何とあのイザベルにバッタリ出くわした。見知らぬ男と一緒に。「彼、ピアニストなの。一緒に仕事をしてみて感覚がとても合うの。だから…あの…結婚するの」ガーン！「あなたにもきつとピッタリの人が見つかるわ」「わかっているよ」そう言い捨てると彼はまた歩き出した。今宵ただひとり、未来に生きるために彼は思い直さなければならなかった。想い出をみつめて生きるより、潔く懐かしき恋人の歌はもう忘れよう。帰り来ぬ青春を悔やんでも仕方ないことだ。もちろんすぐには忘れられそうもないけれど。思えば彼女たちは自分にふさわしい相手を見つけたのだ。うつむく彼の背後から声がした。「よう、ジェフじゃないか？俺の家で飲まないか？」そう言うとペドロが閉店後の真夜中の居酒屋へ彼を招き入れた。彼の様子を察しペドロが言った「なんだ、モテモテのおまえがまだ独身か？俺の妹のマルジョレーヌなんざ、ずっと憧れていたというのに」。振り向いた先で兄と共にこの店をやっている彼女がはにかむように微笑んだ。「よろしく頼むぜ」ペドロのおどけたウインクに、彼の心にまた新たな光が差し込んでくるようだった。（2003.5.2）

シャンソン邦題(33) 創作物語「それぞれの幸福」 解答編

シャンソン邦題(おもな歌手)

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1) カトリーヌ(ダニエル・ヴィダル) | 2)ブルースを歌うマドモアゼル(パトリア・カース) |
| 3)イザベル(シャルル・アズナヴァール) | 4)ラストダンスは私と(マヤ・カサビアンカ) |
| 5)いつものように(クロード・フランソワ) | 6)コメディアン(シャルル・アズナヴァール) |
| 7)雨が降る(シャルル・アズナヴァール) | 8)急流(グロリア・ラッソ) |
| 9)二人の時(シャルル・アズナヴァール) | 10)人々の言うように(シャルル・アズナヴァール) |
| 11)抱きしめて(ジャクリーヌ・フランソワ) | 12)ピラミッド(ジュリエット・グレコ) |
| 13)カナダ旅行(シャルル・トレネ) | 14)眼を閉じて(リュシェンヌ・ドリール) |
| 15)私はどうたう(シャルル・トレネ) | 16)酔いしれて(ジョルジュ・ユルメール) |
| 17)云わないけれど(ダミア) | 18)優しい心(ジャック・ブレレル) |
| 19)老夫婦(ジャック・ブレレル) | 20)私はひとりじゃない(ジュリエット・グレコ) |
| 21)点(クロード・ヌガロ) | 22)眠れる街(ジャック・ブレレル) |
| 23)男(カトリーヌ・ソヴァージュ) | 24)わかっているよ(エンリコ・マシアス) |
| 25)今宵ただひとり(ジュリエット・グレコ) | |
| 26)未来に生きる(ジュリエット・グレコ) | |
| 27)思い出をみつめて(シャルル・アズナヴァール) | |
| 28)懐かしき恋人の歌(ジャック・ブレレル) | |
| 29)帰り来ぬ青春(シャルル・アズナヴァール) | |
| 30)ジェフ(ジャック・ブレレル) | |
| 31)ペドロ(マリー・デュバ) | |
| 32)真夜中の居酒屋(ダミア) | |
| 33)マルジョレーヌ(フランシス・ルマルク) | |

【一口メモ】

- 1)カフェ・ノワール ブラックコーヒー。
- 2)ビスキュイ 焼き菓子。昔は硬くするために2度焼いたそうだが、今は1度焼きがほとんど。
- 3)ポワレ 鱸(すずき)、鯛、サーモンいろいろあるけれど、バターやオリーブオイルを使って表面を香ばしく中を柔らかく焼く。ハーブなどの香草を敷詰めて焼く(ポワレ香草焼き)。
- 4)ブイヤベース 一般的にマルセイユ風。カサゴ、タラ、穴子、ホウボウが基本。その他材料はトマト、ニンニク、ポワロー(フランスの甘味のある葱)、サフラン、オリーブオイル。ルイユを添える。
パリ風の場合、舌平目、サバ、エビが入る。
*ルイユ:おろしニンニクと卵黄を良く混ぜ、サラダオイル少々、海塩、サフラン等を加えた調味料。
- 5)ガトー・オ・フロマーージュ・ブラン ガトーはケーキ(ケーキの総称はパティスリ)フロマーージュはチーズ、ブランは白。白いチーズケーキ。